

「平和と戦争」

読谷小学校 四年 二組 知念 愛乃音

私は、図書館で、戦争の本ほ詠みました。一ページずつ詠んでみました。すると、戦争でなくなった人や、うたれた人の写真がたくさんありました。中には首を切って持った写真もあって、血もたくさん出ていて、びつくりしました。私は、戦争がこんなにこわいものだと思っていなかったの、見た時は、とつてもおどろきました。戦争でなくなった人もたくさんいました。私や家族が戦争でなくなった時の事を考えてみると、こわくて、とつても悲しい気持ちになりました。戦争を見てきたおじいちゃんやおばあちゃんは、家族やまわりの人がなくなっていくのを見てきたかもしれません。本では、戦争に勝つてよろこんでいたけど、よろこべる事じゃないなつて思いました。勝つてもたくさん命がなくなつてしまうから、戦争は、ぜつたいにい

いことではありません。なんのかわりもない人、生まれてきた赤ちゃん、小さい子などが、食べ物を食べきれなくなったり、ばくだんでなくなったり、てきに見つかるとうたれたりして、今の世界にはいない人もいます。

「もつともつと長生きしたい。」

戦争にいた人は、だれだってそう思ったと思います。なのに、自分の命を大切にしない人がいたと思います。今では戦争をしていてなくなっていると思います。今でも戦争をして苦しんでいる人がいる国は、何年かたつて戦争が終わると、ぜつたいにこうかいすると思います。戦争は、何時間や何日で終わる、かんたんな事ではありません。戦争が長ければ長いほど、人は、どんどんなくなっていくと思います。いろんな動物や、人間、しぜん、虫など、他にも大切な村、町が、あらされて、宝物もなくなると思います。人の命は一つとかぎられています。こんな戦争のために命をむだに使うのは、とてももつたいたいと思ひ、

自分も命も大切にしていなと思います。生きていくものにかぎられた、たった一人一つの、大切な命のために、戦争はやめようと思います。戦争は、こうかいするむだな国と国との戦いです。戦いのための命ではないので、このために使うのはもったいないです。だから、戦争はやめましょう。

私は、こわい戦争の本を見て、今のくらしと昔の戦争をしていた時のくらしをくらべて考えてみると、こう思います。

「平和って、とってとってもいいことだなあ。」